

平成 27 年度

事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会

特別養護老人ホーム なでしこの里

ショートステイ なでしこの里

なでしこデイサービスセンター

有料老人ホーム 四季の杜

1 はじめに

27年度は、介護保険の改定や入所者の高齢化による退所発生数が増加した事により、施設経営面では、大変厳しい年度であったが、施設理念「共に支え、共に生きる」に基づき「利用者本位、自立（自律）支援、利用者一人ひとりのニーズを把握し、その人らしく穏やかに暮らせるための支援を提供する」を目的とし事業運営に取り組んでまいりました。また、ご利用者に安心と安全を提供するためには、日々現場でサービス提供に従事するスタッフ一人ひとりの資質の向上を目指しサービスの質の均一化や一定水準の維持を確保するため、施設内外の研修、講習等への積極的参加や資格取得に向けて取り組み、また労務管理においてもスタッフ自身が「ここで働いてよかった」と思える施設であることを目指し業務、組織、賃金等の改善を図り働きやすい職場環境作りや就労意欲の高揚を図るなど可能な限り今後も職員の教育、育成、定着に取り組むたいと考えます。

産山村が重点施策としている地域包括システム構築においても当施設は、重要な役割を担っていることを十分認識し、高齢者が安心して地域で暮らせる住まいの確保やサービス提供に取り組ましました。今後も引き続き行政、地域とのさらなる連携を図り村民は、もとより熊本県下に広く周知活動を行い各事業所の利用推進に努めると共によりよいサービスの提供を目指していきます。

平成27年度事業実績については以下のとおりです。

2 各部署事業実績

1) 地域包括ケア事業

① 村民及び関係機関との連携

・村内実態把握事業 3ヶ月に1回独居高齢者、高齢者世帯等の事態把握を行い包括支援センターへ報告連絡をおこなう。

H27年度	独居	高齢者世帯	その他	計
6月	14	10	8	32
9月	10	6	9	25
12月	10	10	8	28
3月	8	10	11	29

(人)

生活の様子や健康状態、自立度等について現状の把握を行うとともに高齢者からの不安や相談に耳をかたむけて現状把握に努めた。更に出来るだけADL等の低下を予防し認知症状が進行しないように必要なサービスの紹介や手続きについて説明。介護保険制度やなでしこの里、デイサービスの説明などを行うと共に行政や居宅事業者へとつなげ安心して生活できるように努めました。平成27年度は独居や高齢者

世帯はもちろんであるが、同居世帯で暮らす高齢者にも多くの問題を抱えている方も多く、更に困った時の相談場所や介護サービスの周知活動の必要性を強く感じました。

・地域運営推進会議の開催 2ヶ月に1回

委員は行政、地域包括支援センター、民生委員、家族会の会長・副会長、居宅介護事業所、ケアマネージャー、なでしこの里施設長、介護主任、デイサービス主任、ケアコーディネーターで構成し開催。毎月の各施設の利用状況報告と共に運営についての意見交換を行い、行政や家族の会をはじめとして多くの貴重な意見を頂き、より良い施設運営に努める場となりました

・居宅介護支援事業所ほっと館、訪問介護事業所と有料老人ホーム四季の杜、なでしこデイサービスの連絡会議の開催

27年度は定期開催が出来ず不定期に年4回の開催にとどまりました。ほっと館と四季の杜、なでしこデイサービスとの各事業所間の連携を図り、利用者一人ひとりのサービス提供などについて意見交換を行いました。

②なでしこの里の各事業所間の連携とスタッフの質の向上

施設の質の向上を目指して各委員会の開催及び施設内研修の実施と共に施設外研修にも積極的にスタッフの派遣を行い施設内研修で伝達を行いました。(実績については別記)

2) 看護部事業実績

1 利用者の健康管理について

①年2回(8月・3月)の検診は昨年引き続き血液検査、尿検査を施設の看護師が行い、その結果の判定を嘱託医の産山診療所林田医師にお願いする形にしました。胸部レントゲン撮影も済生会予防医療センターの福祉活動の一環としての協力により本年も無料での健診となりました。ポータブルの撮影機器を施設内に持ち込んでの撮影で入所者、職員双方の負担軽減を図る事が出来大変スムーズに実施できました。胸部レントゲンの結果要精密者が四季の杜から1名出ましたが精密検査の結果異常なしでした。

②血液検査等検診結果は主治医に報告し要精検、要指導等引き続きフォローアップに努めましたが積極的治療の必要な方は見られませんでした。

③インフルエンザ予防接種は保証人より同意を得て該当者全員に接種出来ました。

④例年誤嚥性肺炎で入院される方が多く見られる事から口腔ケアの周知徹底を行い誤嚥性肺炎罹患の減少ができました。

2 感染予防について

①「持ち込まない」「広げない」を基本として、感染防止に徹底した結果、特養、四季の杜、デイサービス利用者や職員等より感染は見られませんでした。

②職員はインフルエンザの流行期には出勤時検温を実施し、発熱者は勤務を控え

るという申し合わせを徹底しました。

④入所者で有熱者はリビングに出ないで個室対応を徹底しました。

⑤入所者へは手洗い、うがいを徹底し、廊下の手すりやトイレなどには除菌だーというノロウイルスにもインフルエンザ等にも効果が立証済みの消毒を徹底して行いました。

⑥感染予防委員会を3ヶ月に1回開催するとともに梅雨前に食中毒予防とインフルエンザ流行前に職員への研修会も委員会主催で実施しました

3 介護職と連携し異常の早期発見

① 入院状況 入院の述べ件数は21件で平均入院日数は31日と昨年より長くなりました。同じ人が3回入院したり 2回入院が2名ありました。入院の主となる疾患名は心不全5件、誤嚥性肺炎8件 骨折2件、肺炎1件 精神科疾患1件、白内障2件、蜂か織炎1件、不明1件 です。入院先は阿蘇医療センターがほとんどで大阿蘇病院、やまなみ病院、阿蘇郡外のセントラル病院、熊本日赤病院もありました。

② 外来受診状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
産山診療所	5	7	10	13	6	9	30	15	18	13	12	7
やまなみ HP	2	1	1	1		1			1			1
地域医療センター			1	1	1	2	1	1	1	1		
温泉 HP 内科												1
温泉 HP 整形		1									1	
セントラル HP	1	1	2	1	2		1	1	1		1	2
大阿蘇 HP 整形			1		2	1				1		
皮膚科		1		1								1
歯科		5	10	4	2	2	2	7	5			
眼科		3	1		1	2	2	1	2	1	3	4
耳鼻科												3

産山診療所は嘱託医であり発熱などの報告を行い必要時往診され状態が安定するまで往診をされることで受診回数が増えています。これは入院にならないよう、重篤な症状に進行しない段階で早期受診にも努めた結果といえます。また看取りが開始になると必然的に往診が増えその結果表のような受診回数になっています。また、歯科はきずな歯科が協力医であり入れ歯の調整など往診での治療ができたことで利用者にとっては美味しく食べる事が出来大変助かっています。

通院は協力医への受診が基本ですが緊急や専門的な病気を有する人については家族の協力を得ながら定期受診の機会を確保しました。

入院については、入所者の高齢化ともに入所期間も長くなり全身の機能が低下してきていることから心不全や肺炎での入院が増えてきているものと思われます。また転倒による骨折が2件あり予測を行的確に見守りを行っていく必要があります。平成27年度は病院での死亡も含めて5人がなくなりました。食事摂取状況をはじめ全身状態の把握を行い介護と連携しながら早めに主治医、家族、介護及び看護スタッフとカンファレンスの場を持ちました。今後の治療方針や緊急時の対応などについて話し合いを行い思いを共有することで緊急時での対応もスムーズできました。今後もタイムリーに関係者とのカンファレンスを行い課題を共有して安心安全に過ごしてもらうよう技術の向上に向けた取り組みをさらに推進していきたいとおもいます。

4 身体機能の維持向上について

①介護職と連携しながら離床や着衣、排泄、口腔ケアなどの日常生活動作の中でできるだけ自分でできることは自分でするよう促し援助しました。

②機能訓練は例年どおり毎月2回PTに依頼し訓練計画と評価を実施しています。通常の訓練についてその機会を利用して、個々のケースについて相談しながら日課の計画を立てて訓練を行いました。訓練内容は歩行訓練、上肢の運動などを積極的に実施して現状維持を目標に取り組みました。その中で2名の方は杖歩行から独歩へもう一人は車いすから手引き歩行へと改善が見られました。

5 看取り介護について

・平成27年度施設で亡くなった方は3人ですが看取り対象者は1名でした。家族にも看取りに参加していただき好物や少しでも口にできるものを持参してもらい、苦痛を和らげるよう話しかけたり手足のマッサージなどしていただきました。居室には花を活けたり好きな音楽を流し、穏やかな安らぎのある空間を作るよう心がけ共に寄り添いながら看取る事が出来ました。看取り後のカンファレンスではケアプランに沿って実施できたか。本人の尊厳は守られたのか家族の思いはどうだったのかについて話し合いました。今後は家族や医師も交えたデスカンファレンスを実施しより良い看取りを実施していきたいと思えます。

・発熱を繰り返したり、経口摂取が難しくなってきた人に対しては適切な時期に主治医にカンファレンスを依頼し医師、家族、介護職員、看護職員が一堂に集まり病状や今後の見通し、家族の思いなど共有する場を設けました。施設の職員間はもちろん主治医、家族との連携が出来ました。

・看取りの同意書についてはカンファレンスの後に説明して署名してもらいましたが、看取りの同意書が間に合わず急激に悪化されなくなる方もいてこまめに状態を把握して同意をお願いしていきたいとおもいます。

・本年から医療についての同意書の書式をつくり本人や家族の希望に沿った医療が実現できるように説明し同意を得ました。緊急時に救急車を呼ぶのか、施設内でできるだけのことをしていくのかなど書面で示すことでスタッフも混乱することなく

スムーズに安心して介護することができました

3) 給食・栄養事業実績

・食事摂取基準に基づいた献立を作成し、特に塩分について気をつけました。
食物繊維やカルシウム、ビタミンの摂取不足が目立つので摂取強化に努める必要があります。

・利用者の食事形態としては、ほとんど変化はありませんが少しずつ常食からきざみ対応の方が増えています。摂取量の状況では、残食の多い方で主食はほぼ完食されても、副食は良くて8割ほどの摂取にとどまっています。特に目立って栄養補助食品を使用するほど食欲の低下された利用者は見られませんでした。

・やせ傾向の方と標準体重を大きく上回る方の差が見られ、BMIの結果では例年と比べると、25%以上の方の割合が増加しています。個人への摂取量の調整が必要になっています。

・節分、ひなまつり、七夕、敬老の日などは行事食を提供し、運動会やおせちはプレート盛りでいつもと変化を持たせ提供しました。その他バーベキューやそうめん流し、冬至にはゆずに南瓜、七草がゆなど季節を感じていただけるように食事に取り入れました。

また、施設で採れた生しいたけや小豆、にらなども利用者の下処理を手伝って頂き、料理に取り入れることができました。

・例年通り6月と12月の年2回給食委員会と嗜好調査を実施できました。

・毎日の食材の次亜消毒に器具の熱殺菌、保存食の保管、月1回の検便を実施し、衛生と安全管理を徹底しました。

・各ユニットでのホットプレートを活用しての料理に関しては実施できていますが、今後はもう少し頻度を増やし取り組んでいきたいと思えます。

・利用者のリハビリ目的としての野菜の皮むきやカットに関しては、利用者のできる方とできない方の偏りからいつも同じ方しかできない、補助につけないなどの理由から実施できませんでした。今後はユニットでの料理の際などに利用者にも参加して頂けるように計画して引きついでいきたいと思えます。

・配膳はできるだけ直前を心がけ、温冷の適温での食事提供に努めました。

・食事形態や食器の変更などは給食委員会や介護職員と相談し、利用者の食事の様子をみながら、食べやすい形態、食事が認知しやすいまたは持ちやすい器に変更するなどの対応ができました。その他、代替えの食事提供や栄養補助食品を活用し個人への配慮が行えました。

3. 各施設事業実績

1) 特別養護老人ホーム なでしこの里 定員29名

特別養護老人ホームなでしこの里は、8年目を迎えました。平成28年3月31日時点の入居者数は25名で推移しています。職員のケアに対する意欲も益々高まり、より質の高いケアをご利用者に提供できるよう実践しています。

また、例年に引き続き認知症の症状の改善に努め平成26年度より希望者に公文式脳トレーニングを実施すると共に定期的に入所者全員に認知症の判定を実施し改善や横ばいという状況が見られています。また脳梗塞の予防を念頭に塩分制限や水分摂取などの状況の把握に努めると共に、今後も日々のリハビリ活動を充実させ利用者が健康でその方らしい生活を継続出来る様職員一丸となって日々努力していきたいと考えています。

施設行事の中では外出や利用者個々の嗜好に合わせた誕生日企画（外食、外出、自宅への帰宅など）の実施、昨年に引き続き第3回なでしこの里夏祭りを実施しました。昨年度より職員の動き、催し物の内容等だんだん良くなってきていると、家族会、地域の方よりお褒めの言葉もいただきました。

職員の質の向上の為に月に2回の施設内研修を行い、ご利用者によりよいケアの提供が出来る様に日々努力しています。

その中で「共に支え、共に生きる」の理念のもと職員一人ひとりが利用者に寄り添い利用者を理解し、同じ目線・同じ立場でその方の生活全般を支えるという視点を持ってケアに取り組んできました。

平成28年度は27年度と同様に地域との繋がりの強化（地域の縁側事業の増加、ボランティア活動の受け入れ・育成）、農作業、花植えなど利用者が慣れ親しんできたものへの取り組みの強化を更に行って行きたいと考えています。

「なでしこの里」は引き続き、サービスの質の向上はもちろん利用者、地域の方にとってより開かれた施設、地域の交流の場となれるような環境づくりを目指していきたいと考えています。

・事業所別利用者推移表

月	特養	通所	有料	月	特養	通所	有料
4月	29人	16人	11人	10月	29人	24人	12人
5月	29人	22人	11人	11月	29人	24人	12人
6月	29人	22人	12人	12月	26人	24人	12人
7月	28人	22人	12人	1月	24人	22人	12人
8月	29人	23人	12人	2月	22人	21人	12人
9月	29人	23人	12人	3月	25人	21人	12人

・施設内研修

日時	内容	参加人数
5月26日(火)	・ケアプランについて ケアマネジャー 飯野亮城	13名
10月23日(水)	・口腔ケアと肺炎予防について 講師～きずな歯科 我那覇歯科医師～	15名
11月17日(金) 11月30日(月)	① レクリエーションの実際 デイ職員 江藤雅也 ② 排泄ケアについて 特養職員 西田龍世	25名
12月9日(水) 12月24日(木)	① 身体拘束について ケアマネージャー 飯野亮城 ② 認知症と公文式脳トレーニングについて 特養相談員 高橋義裕 デイ主任 渡辺啓介	29名
1月13日(水) 1月27日(水)	① 感染症予防について(ノロウイルスを中心に) 栄養科職員 井 正和 ② 看取りについて 看護職員 帆足 真由美	21名
2月10日(水) 2月24日(水)	① 高齢者におきやすい病気 ～高血圧について～ 産山診療所 林田 来介医師	20名
3月9日(木) 3月12日(水)	① 腰痛予防について 特養職員 生嶋 健人 ② 口腔ケアについて 特養職員 鶴 富裕子 高木 真紀	17名

・施設外研修

月	研修内容	参加者
6月18日	1. 株式会社 ミタカ福祉機器展示会	1、高橋 飯野
6月23日	2. 27年度介護サービス事業者等集団指導	2、渡辺
6月25日	3. 27年度介護サービス事業者等集団指導	3、井 飯野
6月28日	4. 第48回市民公開講座ベッドサイドリハ	4、松山
7月16日	1. 27年度熊本県老人福祉施設協議会後援会	1、橋本

10月6日～ 10月30日 10月28日 11月4日 11月7日 11月9日	1. 認知症ケアの質の向上 2. 有料老人ホーム運営研修 2. 27年度ユニットケア研修 3. 排泄ケアと移乗介助とエトセトラ 4. 27年度老人福祉施設看護職員介護職員研修会 5. くもん育成士養成研究会	1、渡辺 2、河田 2、橋本 3、西田 4、帆足 5、高橋 飯野 渡辺 6、高橋 7、井正和 8、飯野 9、飯野 内那
11月17日 11月19日 11月20日 11月21日	6. 27年度モチベーションアップ研修会 7. ノロウイルス食中毒予防講習会 8. 熊本県介護支援専門員協会阿蘇市部中部地区研修会 9. 身体拘束廃止に向けての各施設の取り組み	
12月5日 12月17日	1. 介護職員新人研修 2. マスター認定研修会	1、松山 2、高橋 飯野 渡辺
1月16日 1月14日 1月21日	1. 熊本県老人福祉施設研究大会 1. 阿蘇地域リハビリテーション広域支援センター研修 1. 27年度社会福祉主事資格認定通信課程（秋期コース第1回）面接授業	1、後藤 前田 2、西村 3、飯野
2月14日 2月21日	1. 第9回熊本県医療・保険・福祉連携学会出席 1. 介護予防対象者、要介護者の個々の状況に応じた口腔機能の維持、回復について	1、井美代子 2、高木

・資格について

資格習得を通じて自己の資質を高めたいという意欲のある職員に対しては、費用や研修日の確保などの面で様々な支援を行いました。27年度については社会福祉主事任用資格者1名、ユニットリーダー資格1名、その結果、ホームヘルパー2級ほぼ全員、ユニットリーダー有資格者6名、介護福祉士9名、社会福祉主事5名が施設に在籍しています。また、研修を終えて戻ってきた職員が他の職員に対して、研修で得た知識や経験などを伝えていったことで職員全体の資質と意欲の向上に繋げることができました。来年度においてもこのような意欲のある職員を尊重し積極的な支援を行っていきたいと考えています。

職員有資格状況（28年3月現在）

ケアマネージャー	3名	社会福祉主事	5名
介護福祉士	9名	ホームヘルパー2級	全員
看護師	2名	ユニットリーダー	6名
准看護師	2名		

・入居状況としては、3月31日時点25名（稼働率86%）で推移しています。昨年度と同様ユニット毎に月1度のユニット会議を設け、利用者個々のケアの向上を図れるよう職員全体で話し合い日々のケアの向上に努力しました。

・行事では、利用者にとって四季の移ろいを肌で感じてもらうために、それぞれの季節に合った行事や施設内で出来る行事の増加に努力してきました。ユニット毎に利用者と一緒におやつ作り、料理作り等を行い利用者の意欲づくりに努めました。

・利用者の健康面においては、介護スタッフと看護スタッフが連携し感染予防の徹底に重点をおいて取り組むと共に、館内各ユニットと玄関に感染予防のため除菌器を設置し、インフルエンザ、ノロウイルスなどの流行を防ぐことができました。

・利用者利用状況（28年3月現在）

介護度		年齢別	
要介護1	0人	60代	0人
要介護2	3人	70代	1人
要介護3	13人	80代	10人
要介護4	5人	90代	14人
要介護5	4人	100代	0人
平均介護度 3.4		平均年齢 89歳	

・面会状況（平成27年度）

月	1日平均	延べ人数	月	1日平均	延べ人数
4月	2.6	79	10月	1.4	44
5月	2.3	71	11月	1.4	43
6月	2.3	89	12月	1.9	60
7月	2.5	77	1月	1.6	50
8月	3.5	108	2月	1.7	50
9月	1.6	48	3月	2.3	73

・利用者の外出、外泊状況（平成27年度）

外泊 6回／年

外出 51回／年

・年間行事報告

月	行事内容
4月	・誕生日会（4/2）、花見（4/15）、野菜植えバーベキュー（4/18）
5月	・誕生日会（5/12）、村民体育祭（5/16）、弾き語りコンサート（5/20）、人形劇（5/19）、カラオケ大会見物阿蘇市（5/31）
6月	・プロレス観戦（6/2）、花公園外出、三愛レストハウス外食（6/15）、

	焼き肉 (6/22、29)、ホテルコンサート (6/27)
7月	・誕生日会 (7/16)、ほっと館交流 (7/21)
8月	・誕生日会 (8/15)、納涼祭 (8/29) ほっと館交流 (8/17)、押し花 (8/17)
9月	・誕生日会 (9/1、11)、子供ヘルパー (9/7)、産山村敬老会 (9/15)、防災訓練 (9/21)
10月	・誕生日会 (10/21)、子供ヘルパー、押し花教室 (10/19) 紅葉狩り (10/28)、収穫祭 (10/26)
11月	・誕生日会 (11/22)、なでしこの里運動会 (11/14) 焼き芋 (11/15)
12月	・誕生日会 (12/6)、忘年会餅つき (12/19)、押し花 (12/14)
1月	・誕生日会 (1/10)、どんどや
2月	・誕生日会 (2/13)、節分 (2/3)、ボランティアの方による歌謡ショー (2/10)
3月	・誕生日会 (3/27)、ひな祭り (3/3)、ほっと館交流 (3/12)

2) 短期入所生活介護 なでしこの里 定員 併設8人

・利用人数は冬場の利用が多く、その他の時期 (5月～10月) は利用者が減少しています。(稼働率 47%)。居宅のケアマネージャーと連携し、家族の介護負担の軽減を図る上でもコンスタントにショートステイを利用して頂けるように介護者の家族に説明を行っていきと共に広報掲載を行い地域住民に広く周知を図ります。

・ショートステイを利用する方で特養や有料の入居申込書が出ていない方やデイサービスを利用されていない方が多くいます。その利用者や家族に対して、ここで生活したいと思って頂けるような援助、雰囲気作りに努め、入居やデイサービス利用申し込みにつなげていくよう更に努力していきます。

・短期入所契約者数 25名 (28年3月現在)

介護度別		年齢別	
要介護1	5人	60代	1人
要介護2	8人	70代	3人
要介護3	8人	80代	12人
要介護4	2人	90代	9人
要介護5	1人	100代	0人
平均介護度	2.5	平均 86.7歳	

※(要支援1名)

・短期入所利用者推移表

月	要支援別 人 数		要介護度別 人 数					延人 数	1日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
H27・4	0	0	2	1	4	2	0	142	4.7
5	0	0	2	3	3	2	0	71	2.2
6	0	0	0	1	5	3	0	70	2.3
7	0	0	4	1	6	3	0	89	2.8
8	0	0	3	2	7	2	0	49	1.6
9	0	0	4	3	5	2	0	68	2.2
10	0	0	3	3	7	2	0	80	2.6
11	0	0	2	1	7	2	0	143	4.8
12	0	0	3	4	7	2	1	152	4.9
H28・1	0	0	2	3	4	1	1	161	5.2
2	0	0	3	2	5	1	0	105	3.8
3	0	0	3	2	5	1	0	100	3.2

3) なでしこ・デイサービスセンター 定員12名

1) 基本方針

利用者の健康状態の把握や、様々なサービス提供を行い自宅での生活の維持・継続が可能な限り継続され一日でも長くデイサービスを利用して頂くように努めました。利用者の確保については村民への周知を図ると共に利用者獲得を目的とした営業を行い、新規利用者獲得を引き続き行っていきます。

2) 認知症進行防止のための支援

3ヶ月に1回 MMSE 測定の実施をおこない、認知症進行度の評価、確認を行いました。認知症について職員への周知を図り、個別ケアの充実に努めました。

又、五感を刺激し認知症予防に効果が期待できるとして下記の活動をおこないました。

①月2回の書道教室や4ヶ月1回の押し花教室を行い村内の文化祭や、催しに作品を出品・展示しました。作品の製作ばかりではなく展示会場へ行かれる事で地域の顔見知りの方との交流を深めることもできました。

②畑仕事を取り入れ、植ええや収穫をしてもらうことで、昔やられていた畑仕事を思い出しながら作業をしたり、地域の方と一緒に作業することで、地域社会と活発な交流をすることができた。

③買い物ツアーも不定期ですが利用者の希望に沿って実施しました。

④ロコモ体操（ロコモティブシンドローム）を日常生活時、転倒のリスク削減の為機能訓練の一貫として取り入れました。

⑤家族・本人に希望をとり、公文式脳トレーニングの学習を週2回程度実施して認知症の改善が見られました。

3) 健康管理

利用時は看護師を中心とした予防対策を徹底し、職員、利用者ともに手洗い・うがいの徹底、職員は自宅で検温を行い、熱が37.5度以上ある職員は勤務停止。また、利用者は迎え時に乗車前の検温を行い、熱が37.5度以上ある方には利用を控えていただき、病院の受診をご本人及び家族へ勧めました。今後も検温、状態観察、家族からの情報収集、各関係機関への報告を徹底し健康管理に努めます。

4) なでしこデイサービスの周知活動

毎月発行される「うぶやま公報」に活動の紹介や募集案内を折り込みました。

5) 年間行事報告

月	行事内容
全体行事	・村民体育祭見学(5/16)、夏祭り(8/29)、産山村敬老会(9/15) 収穫祭(10/26)、運動会(11/14)、忘年会兼クリスマス会(12/19) 村民文化祭(11/3)
4月	・お花見(4/5)、村内散策(4/15)、書道教室(4/10・4/24)
5月	・わらび狩り(5/18)、書道教室(5/8・5/22)
6月	・つつじ見物・足湯温泉(6/3)、書道教室(6/12・6/26)
7月	・七夕作り(7/7)、書道教室(7/10・7/24)
8月	・バーベキュー(8/18)、書道教室(8/14・8/28) 押し花教室(8/17)
9月	・書道教室(9/11・9/25)
10月	・書道教室(10/9・11/23)
11月	・紅葉見学(11/5)、書道教室(11/13・11/27)
12月	・押し花教室(12/14)、書道教室(12/11・12/25)
1月	・初詣(1/27)、書道教室(1/15・1/22)
2月	・節分・手巻き寿司、書道教室(2/12・2/26)
3月	・ひな祭り・ちらし寿司(3/3)、書道教室(3/11・3/18)

※3ヶ月1回誕生会を実施

1 デイサービス利用実績

○ 1日平均利用人数

4月	7.7人	11月	9.8人
5月	8.9人	12月	9.6人
6月	9.3人	1月	7.6人
7月	8.9人	2月	7.3人
8月	9.3人	3月	7.7人
9月	9.3人		
10月	9.9人	平均	8.8人

○ デイサービス登録者 数年間登録人数

4月	16人	11月	21人
5月	20人	12月	18人
6月	20人	1月	19人
7月	21人	2月	18人
8月	20人	3月	19人
9月	18人		
10月	21人	平均	19.3人

・利用者利用状況（平成28年3月31日現在）

介護度		年齢別	
要支援1	0人	60代	0人
要支援2	3人	70代	1人
要介護1	9人	80代	12人
要介護2	3人	90代	6人
要介護3	3人	100代	0人
要介護4	1人		
要介護5	0人		
平均介護度 1.2		平均年齢 87.5	

来年度は認知症の専門性を更に身につけていけるように職員一丸となって努力まい進し、利用者がいつまでもできる限り自立して自宅で生活できるよう認知症対策に重点をおいたデイサービスの充実を図ってまいります。

4) 有料老人ホーム 四季の杜 定員 12名

○基本方針

さまざまな事情をかかえて入居された利用者に安心と安らぎのある暮らしを提供できるように利用者側の気持ちに添いながら生活支援やサポートに努めました。入居募集の広告作成・多方面への配布を行い利用者獲得に努めると共に、関係機関にも御協力頂き増員ができました。

今後も近隣町村、病院や在宅事業所等へ営業と周知を行い新たな利用者獲得及び、待機者等の確保に努めます。またインターネットサイト（みんなの介護）に施設紹介を載せ全国に配信も行い、3件問い合わせがありました。

○安心安全の住まいの提供と生活の支援

衣・食・住・の3要素を念頭に安全に配慮した生活空間の最大利用を図り楽しい会話、個人生活を尊重し、相手の立場に立った処遇に努めた。

入居以前の自宅生活に近い環境作りに努め、個人の昔からの慣れ親しんだ趣味や作業を日課に取り入れた。入居中のさまざまな、利用者・家族からの相談・要望・苦情には、速やかに対応、処理できるよう努めた。

○アクティビティ

カラオケ大会・・・・・・・・・・8月29日

足湯（マッサージ）・・・・・・火曜日・日曜日実施

買い物ツアー（外出支援）・・月に1回

施設外周散策（椎茸・きゅうり・ゴウヤ・梅）・・採取・・不定期実施

そうめん流し・バーベキュー・・8月29日

運動会・夏祭り・忘年会・・・・・・運動会（11/14）、夏祭り（8/29）、忘年会（12/19）

他方面への催し物参加・・・・・・村民体育祭（5/16）、敬老会（9/15）、村民文化祭（11/3）

○健康及び身体機能の向上のための支援

利用者の起床時のバイタルチェックの徹底、バイタル異常者の看護への報告の徹底、感染しないように利用者・職員の手洗いうがい、施設内の殺菌消毒・検温を徹底、行政や関係機関共連携し感染予防に努めました。

○利用者状況 平成28年3月31日現在

・男女別利用町村

	産山村	阿蘇市	小国町	熊本市	福岡県
男性	2名	1名	0名	0名	1名
女性	4名	1名	1名	1名	0名

・介護度

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1名	0名	0名	4名	1名	3名	1名	0名

※平均介護度 1.0

・年齢

60歳未満	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
0名	0名	3名	3名	5名	0名

※平均年齢 86.8歳

・介護サービス利用内訳（延べ人数）

なでしこデイサービス	6名
デイサービスセンター ほっと館	5名
訪問介護	6名

四季の杜の利用者が、介護保険サービスを使いながら、いつまでもお元気に明るく過ごして頂けるように職員全員が、技術・知識の向上に努め、より良いサービスの展開が図れるように邁進していくように今後も努力してまいります。